

U.S. Indicators

発表日:2021年3月17日(木)

米国 大寒波で2月生産は予想外的大幅縮小

～半導体不足が足枷も天候改善で3月以降拡大へ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

21年2月の鉱工業生産は、前月比▲2.2%（1月同+1.1%）と市場予想同+0.3%に反して縮小した。20年9月～21年1月合計で0.2%p下方修正された。公益が前月比+7.4%（1月同▲0.6%）と拡大に転じたものの、鉱業が前月比▲5.4%（1月同+2.1%）と失速したほか、製造業は前月比▲3.1%（1月同+1.2%）と市場予想の同+0.2%に反して縮小した。2月に米国を襲った大寒波の直接的な影響や、大寒波を受けた電力不足、半導体不足の深刻化によって生産活動は一時的に停止、あるいは抑制に追い込まれた。

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が+8.1%（前月+10.9%）、製造業生産が+6.7%（前月+11.9%）と拡大モメンタムを維持している。コロナ禍でも財需要が拡大していることや行動規制の直接的な影響を受け難いこと等から、米国の製造業の生産活動は緩やかな回復基調に変化はみられない。ただし、新型コロナウイルスのパンデミックによって世界規模で経済活動の制限が続いており、米国の生産は新型コロナウイルス危機前の水準を依然下回っている。

鉱工業の設備稼働率は、生産の縮小によって73.8%（前月75.5%）と低下し、市場予想75.5%を大幅に下回った。また、製造業も72.3%（前月74.6%）と低下した。

新型コロナウイルスのワクチン接種率が60%を上回るには時間がかかるため、21年前半もパンデミックが続く可能性が高いことから、ソーシャルディスタンスを考慮した対応を続ける必要があり、サービス需要の脆弱な状況が続く一方、テレワークや巣ごもりなどによる財需要の拡大傾向や、在庫不足、天候の改善等を背景に、製造業生産は前月比で拡大モメンタムを維持すると予想される。ただし、世界的な需要拡大による半導体不足が続くことで、21年前半の自動車生産などは抑制される公算が大きい。

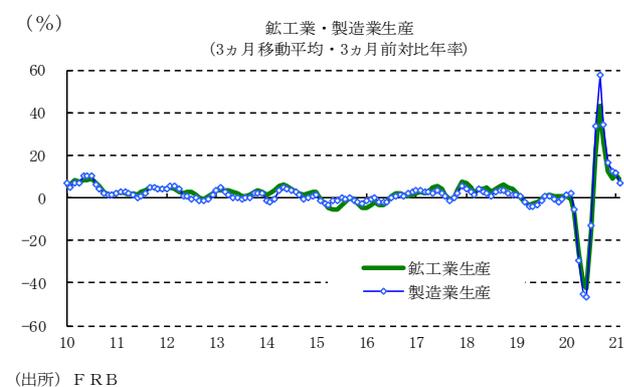
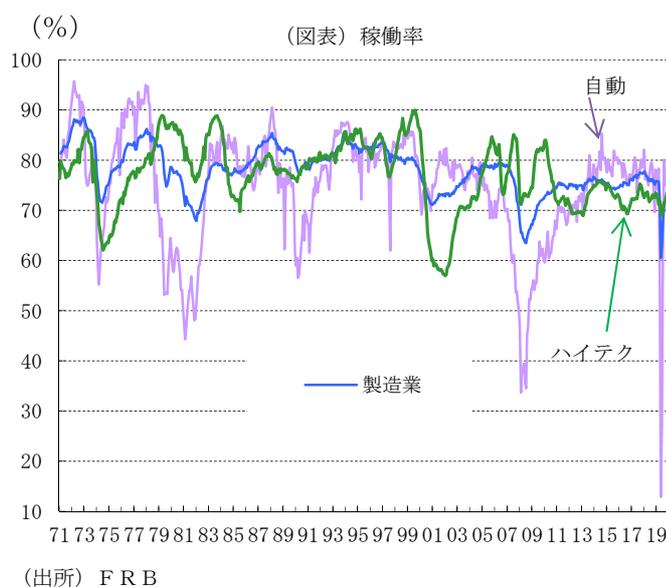
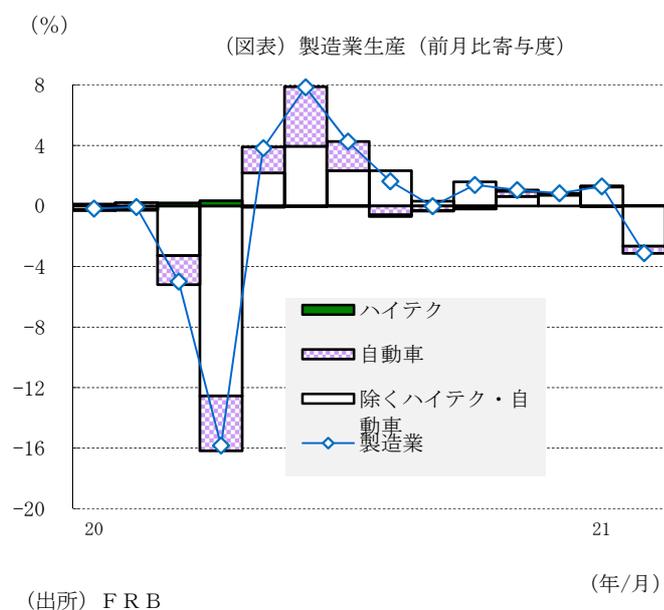
鉱工業生産

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率		生産能力
									全産業	製造業 (SIC)	
20/03	▲4.4	(▲4.7)	▲5.0	▲1.7	▲3.1	+1.3	▲5.0	▲29.2	+73.6	+71.4	+0.0
20/04	▲12.7	(▲16.3)	▲15.8	▲6.8	+1.8	▲2.3	▲15.8	▲76.7	+64.2	+60.1	▲0.0
20/05	+0.9	(▲15.7)	+3.8	▲11.3	▲0.7	▲0.8	+3.7	+110.4	+64.8	+62.4	▲0.0
20/06	+6.2	(▲10.5)	+7.7	+2.5	+1.3	+2.2	+7.5	+125.6	+68.9	+67.2	▲0.0
20/07	+4.2	(▲6.6)	+4.2	+3.4	+5.1	+2.1	+4.2	+31.0	+71.8	+70.1	▲0.0
20/08	+1.0	(▲6.3)	+1.7	▲1.0	▲1.7	+0.5	+1.8	▲3.9	+72.5	+71.3	▲0.0
20/09	▲0.1	(▲6.1)	+0.1	+0.9	▲2.2	+1.5	+0.0	▲2.4	+72.5	+71.4	▲0.0
20/10	+1.0	(▲4.8)	+1.4	▲1.8	+1.5	+1.9	+1.5	▲0.4	+73.2	+72.4	▲0.0
20/11	+0.9	(▲4.8)	+1.0	+3.4	▲2.5	+0.1	+1.1	+4.1	+73.9	+73.1	▲0.0
20/12	+1.0	(▲3.5)	+0.7	+0.4	+3.8	▲0.4	+0.7	▲0.1	+74.6	+73.7	▲0.0
21/01	+1.1	(▲2.0)	+1.2	+2.1	▲0.6	+2.0	+1.2	+0.1	+75.5	+74.6	+0.0
21/02	▲2.2	(▲4.2)	▲3.1	▲5.4	+7.4	▲0.3	▲3.0	▲8.3	+73.8	+72.3	+0.0

(注)カッコ内は前年比

業種別の動向をみると、前月比で増加した業種は、一次金属（+0.8%）、航空宇宙・その他輸送機器幅（+0.8%）、繊維（+0.6%）の3業種にとどまった。一方、前月比で減少した業種は、自動車・同部品（▲8.3%）、化学（▲7.1%）、石油・石炭製品（▲4.4%）、家具・関連製品（▲3.4%）、非鉄（▲2.9%）、加工金属（▲2.9%）、一般機械（▲2.3%）、その他耐久財（▲2.1%）、印刷・同サポート（▲1.8%）、食品・飲料・タバコ（▲1.7%）、コンピューター・電子（▲1.6%）、木材製品（▲1.1%）、アパレル・皮革（▲0.9%）、電気設備・機器・同部品（▲0.8%）、その他製造業（▲0.5%）、プラスチック・ゴム（▲0.2%）、紙パ（▲0.1%）と続いた。

前年比で拡大した業種は、食品・飲料・タバコ（+1.1%）、航空宇宙・その他輸送機器（+0.8%）、木材製品（+0.6%）の3業種にとどまった。一方、前年比で減少した業種は、減少幅の大きい順に印刷・同サポート（▲14.8%）、その他製造業（▲14.8%）、石油・石炭製品（▲12.8%）、家具・同製品（▲11.7%）、自動車・同部品（▲8.6%）、非鉄（▲7.1%）、加工金属（▲7.1%）、化学（▲5.1%）、一次金属（▲4.6%）、繊維（▲3.7%）、電気設備・機器・同部品（▲3.1%）、紙・パ（▲2.4%）、プラスチック・ゴム（▲1.7%）、一般機械（▲1.2%）、コンピューター・電子（▲1.0%）、アパレル・皮革（▲1.0%）と続いた。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。